



大会宣言(案)

「職場と地域に背を向ける会社を許すな！現状を打破するため、多くの仲間を結集させ、希望ある未来を創造しよう！」「歴史的物価高騰の中、手取り賃金が減るなど言語道断。全ての労働者と家族の笑顔と生活を守るため、魅力ある賃金を勝ち取り改善を目指そう！」の2本のスローガンを提起し、ジェイアールバス関東労働組合八日市場分会は本日、多古町コミュニティプラザに於いて第5回定期大会を開催した。今年にはコロナウイルス感染症から完全脱却した最初の年であり、好調な利用者増加と経営回復がある中、今だ賃上げが伸び悩み、不安と不満を抱える組合員と家族の現実から出発し、全国的な問題となっている「路線バスの廃止・減便」やジェイアールバス関東会社の一方的な経営姿勢など、山積した課題に立ち向かうべく、全ての議事を満場一致で確認し向こう一年の運動方針を確立した。

ジェイアールバス関東会社の2023年度決算は営業利益で3億9300万円の黒字と2019年度以来の通期累計黒字となり、赤字経営からの脱却を図った。55歳基本給減額制度の改正、60歳以降継続雇用制度の改正はおこなわれたが、今年度のベースアップは2,000円、年末手当の会社回答は基準内賃金2.45ヶ月と到底納得のいくものではなく、職場の中核である子育て世代からは悲痛が叫ばれ、大きな不満を残す結果となった。2025年度春の賃金引き上げのたたかいに向け、分会組合員一同、家族が笑顔で生活の出来る、納得感が得られる回答を要求していく。

職場では「生産性向上」、「効率化」の名のもと様々な施策が打ち出されているが、如実に現れているのは「施策の一方的実施」である。我々の職場でも、施策や方針が会社の一方的な考えのみで打ち出されており、労働者からの提案、業務における今までの慣行すら聞き入れられない状況であり、更には安全衛生委員会や社員懇談会など社員からの意見聴取の場ですら形骸化している現状がある。会社と本部が係争した「労使間の取り扱いに関する協約」の議論もそうだが、全てはジェイアールバス関東会社の労働組合に対する異常なまでの一方的な労組敵視の姿勢にあるといえる。

私たちの組織の出発点である「ジェイアールバス関東不当労働行為事件」は中労委命令取り消し訴訟の判決が先日下ったが、私たちの真実の声が司法に届かなかった。しかし私たちにとってこの事件は勝ち負けで判断するのではなく、大切なはその攻撃の本質に勝つ事であり、それには2018年春以降、会社による労働組合脱退策動、不当労働行為によって職場の人間関係が切り裂かれ、経営幹部トップ自らが「嫌ならやめて結構、どうぞ船から飛び降りて下さい」と堂々と言い放ち、もの言えぬ荒廃した職場環境を背景に運転阻害事故が倍増してきた当時を今一度一人ひとりが振り返り、今でも不当労働行為やハラスメント行為がおこなわれている事実を後世にも伝え、会社姿勢を正していくことがスタートである。

企業と家族の未来の為にも、会社に対して真摯な姿勢で、もの言える真の労働者というものを職場にしっかりと根付かせ、再びジェイアールバス関東会社が笑顔溢れる、風通しの良い企業風土を取り戻せるよう、粘り強く奮闘していこう。それには今一度、私たち労働者に認められている権利である「労働三権」について正しく理解し、すべてのたたかいの意義を仲間と深め、ジェイアールバス関東労働組合八日市場分会への結集を堂々と呼びかけて組織強化・拡大に向けて奮闘していこうではないか！

以上宣言する。

2024年12月15日
ジェイアールバス関東労働組合八日市場分会第5回定期大会

八日市場分会定期大会宣言を発売！

会社の一方的な姿勢を許すな！職場からのたたかいを実践していこう！